

1. 実況上の着目点

- ① 500 hPa リッジが沿海州から日本海に進む。地上では、高気圧が日本海にあって、北日本を覆う。
- ② 日本付近は 500hPa 5820m 付近の強風帯が明瞭。この流れに対応した前線が、華中から日本の南にのびる。前線に向かって下層暖湿気が流入し、前線の近傍や南西諸島で対流雲が発達。局地的に 50mm/h 以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ③ 500hPa 5580m 付近のトラフがモンゴル東部にあって東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧の中心は、22日は三陸沖に移動。北日本では、22日は引き続き高気圧に覆われる。
- ② 1項②の前線上のキンクが22日は四国沖に東進し、23日朝までに前線上に低気圧が発生する見込み。前線に向かって、850hPa 相当温位 345K 以上の暖湿気が流入し、前線近傍では大気の状態が不安定となる。前線の近傍となる九州南部・奄美や伊豆諸島を中心に、23日にかけて落雷や竜巻などの激しい突風、短時間強雨に注意。九州南部・奄美では、22日昼頃にかけては降水帯が組織化し、激しい雨や局地的には非常に激しい雨のおそれがある。低い土地の浸水、土砂災害、河川の増水に注意・警戒。
- ③ 2項②の前線や低気圧の近傍では気圧の傾きが大きくなるため、西日本から東日本の太平洋側では、23日にかけて強風や高波に注意。
- ④ 1項③のトラフは、23日夜に北日本に接近する。地上ではシアーラインが北日本に接近し、シアーラインの東側には下層の暖湿気が流入する。北日本では、23日昼頃から大気の状態が不安定となるため、落雷や突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新 GSM を基本とする。雨の分布・強度は MSM を参考にするが、降水の集中による低気圧の過発達部分については採用しない。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル(06 時からの 24 時間)：伊豆諸島 120、九州南部 100mm。その他、2 項の短時間強雨に注意。
- ②波(明日まで)：伊豆諸島 4、四国・近畿・東海・関東 3m。
- ③高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本や北陸、北日本の太平洋側で、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。